

## 浦安市の複合公共施設における

### 利用者の利便性向上を目的とした行政の取り組みの考察

日大生産工(院) ○杉山 悠力 日大生産工 古田 莉香子  
日大生産工 広田 直行

#### 1. はじめに

##### 1-1. 背景と目的

近年,更新時期を迎えた公共施設で,人口減少・少子高齢化や維持費削減,老朽化等の社会背景を理由に,複合化が行われている.公共施設の複合化は,行政と住民の両者にとって費用削減や利便性向上等の多くの利点が存在していると考えられるが,複合化前の施設を核として形成されていた施設利用者同士の地域コミュニティが損なわれてしまう可能性や,地域住民にとって利用価値がない機能の設置,施設の移転による移動距離の増加,生活利便性の低下など,住民の要望と反した施設計画が行われている可能性がある.

また,現在の社会背景として,都心へ人口が集中し,地方では人口が減少することで過疎地域と過密地域の問題が深刻化しており,求められている複合公共施設は,地域によって異なると考えられる.

そこで本研究では,様々な地域特性を対象として調査を進めていくことで地域特性により異なる複合公共施設の行政意図と住民意識の乖離について調査する必要がある.そのため,過疎地域と過密地域のどちらも存在しており,県内の公共機関の整備状況に明確な差異があるとともに,人口密度や高齢化などの地域特性が多様である千葉県内の市町村を対象として,公共施設の複合化を行政意図と住民意識の両方の視点から読み取り,行政と住民間の考え方にどのような差異が生まれているのかを調査する.

その課題点と改善策を考察することで,複合公共施設の施設計画における行政意図と住民意識の乖離を明らかにし,複合公共施設の施設計画に対する新たな知見を得ることを目的とする.

本稿では,浦安市を対象に,住民の利便性向上を目的としたと考えられる行政の取り組みから,公共施設の複合化に対する行政意図を捉えることを目的とする.

##### 1-2. 研究方法

本研究では,複合公共施設が計画された当時の対象地域の施策や地域特性により,浦安市の基本構想・基本計画当初である平成18年の状況と抱えていた課題を導き出し,行政の考え方を明らかにする.また,対象施設の基本計画・基本構想と住民に提案した内容,調査から行政が複合公共施設の計画当初に意図していたことを読み取る.

最初に,対象地域と対象施設における現状と課題の把握を行う.次に,現状と課題に対する行政の取り組みから複合公共施設に対する行政の考え方と施設計画における調査方法の手法について捉える.最後に,捉えた行政の取り組みから,利用者の利便性向上に対する行政意図を考察する.

#### 2. 対象施設概要

##### 2-1. 千葉県浦安市

本稿で対象とする市町村は,千葉県年齢別・町丁字別人口の結果<sup>1)</sup>により人口が増加傾向にあり,行政人口が多く,高齢化率が比較的低いという特徴の浦安市を対象として扱う.また,施設の計画当初の行政意図を捉えるため,資料とデータは施設計画当時のものを使用する.

総務省統計局による国勢調査の結果<sup>2)</sup>により,計画当時の浦安市の人口分布の特徴を図1に示す.図1から30歳~34歳付近に多く分布しており,その次にその世代の子供世代であると考えられる9歳以下に多く分布し,60歳以降の高齢者が少ないことがわかる.

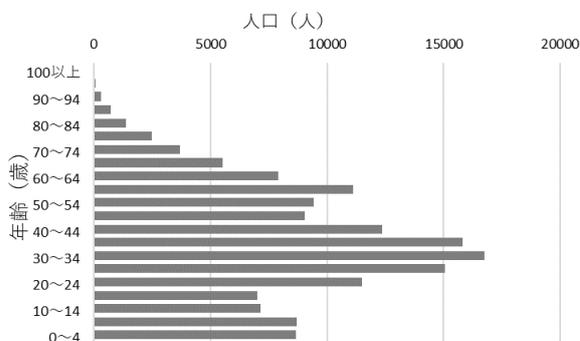


図1. 当時の浦安市における人口分布

A Study of Administrative Efforts to Improve User Convenience in Public Facilities Complexes in Urayasu City

Yuri SUGIYAMA, Rikako FURUTA and Naoyuki HIROTA

## 2-2. 地域交流プラザ エスレ高洲

本研究は、行政意図と住民意識を明らかにし、両者の考えていることの比較を行うことによって乖離している点を明らかにすることを目的としているため、文部科学省の社会教育施設の複合化・集約化<sup>3)</sup>に掲載されている施設のうち施設計画に住民意見を取り入れ、その内容を反映した事例である地域交流プラザ エスレ高洲（以下、「エスレ高洲」）を調査対象施設として調査を行う。エスレ高洲の施設概要を表1に示す。

表1に示す通り、エスレ高洲は平成18年から計画が開始され、平成22年に建設された施設である。高洲公民館や図書館高洲分館、高洲児童センター、高洲移動防犯ステーション、支部社会福祉協議会などの5つの施設機能を持った複合公共施設である。

表1. 地域交流プラザ エスレ高洲 施設概要

施設名	地域交流プラザ エスレ高洲
所在地	千葉県浦安市高洲五丁目3番2号
建設年	平成22年
延べ床面積	7179.43m <sup>2</sup>
施設機能	高洲公民館：文化活動やスポーツ活動を行う社会教育施設 図書館高洲分館：中央図書館と7つの公民館にある分館によって構成されている。 高洲児童センター：0～18歳の子供と保護者が利用できる場 高洲移動防犯ステーション：防犯意識の向上や活動の推進のための拠点 支部社会福祉協議会：地域活動の情報提供や交流の場

## 3. 具体的な行政の取り組み

### 3-1. 浦安市における現状と課題

現状と課題の把握を行うために、(仮)高洲地区公民館複合施設の整備に伴う基本構想・基本計画書<sup>4)</sup>（以下「基本構想・基本計画書」）と(仮)高洲地区公民館複合施設の整備に伴う基本構想・基本計画書（資料編）<sup>5)</sup>（以下「資料編」）に記載されている「高洲地区の状況既存公民館の現状」、「市内における生涯学習推進の状況」、

「既存公民館の利用状況」、「公民館の活動状況」、「サークルの活動状況」、「生涯学習推進の課題」、「公民館主催事業の重点課題」の7項目から当時の浦安市における現状と課題を読み取り、得られた現状と課題を生涯学習、地域コミュニティ、生活利便性、施設利用、施設間連携、人口分布の6つの項目に分類する。分類した結果を以下の表2に示す。

表2から、地域コミュニティと施設利用に関する現状と課題に関する記載が多数みられることから、行政が公共施設の複合化において、最も重要視している項目であるとわかり、生涯学習と生活利便性に関する項目は少数であることが読み取れる。

生涯学習と施設利用では、地域住民に対する学習の場や機会の提供が重要視されている。

地域コミュニティと人口分布では、地域住民が利用する機能や室が重要視されている。

施設間連携では、公民館間での連携や機能の棲み分けといった、既存公民館との関係が重要視されている。

### 3-2. 教育行政の施策と施設機能の関係

教育行政の施策とエスレ高洲の施設機能の関係性を把握するために、基本構想・基本計画書<sup>注1)</sup>と資料編<sup>注2)</sup>に記載されている当時の浦安市教育行政の施策の体系と表1の施設概要に示した施設機能において、関連があると考えられる教育行政の施策の体系と施設機能について、以下の表3に示す。

表3から、高洲公民館と図書館高洲分館、高洲児童センターの3つの施設機能には、それぞれ教育行政の施策の体系が特に反映されていると読み取ることができる。また、高洲移動防犯ステーションの施設機能には、施策の体系との関連性は見られないことがわかる。教育行政の施策の体系で最も重要視されていることは、学習機会や生涯学習であり、対象は児童や青年であると考えられる。

表2. 平成18年の浦安市における現状と課題の分類

生涯学習	地域コミュニティ	生活利便性
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習機会の提供</li> <li>市民の学習要求に対応した様々な学習機会の提供の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を拠点とした地域コミュニティづくりの促進</li> <li>サークル活動が減少傾向にある</li> <li>地域住民相互の地域連帯意識の形成</li> <li>地域住民と地域社会の繋がりが強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活における買い物や行政サービスが不便</li> <li>車や自転車での利用が多い</li> </ul>
施設利用	施設間連携	人口分布
<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的利用が可能な部屋の利用率が高い</li> <li>日常生活圏施設として地域住民に多く利用されている</li> <li>公民館などの学習の場や情報の提供</li> <li>地域性・生活密着性・公益性・公民館での学習成果が地域づくりに繋がるように運営される日常生活圏施設</li> <li>既存公民館はほとんどの部屋で利用率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館相互のネットワーク化</li> <li>ネットワーク化を推進</li> <li>機能の棲み分けを行い、公民館同士で補完しあう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の急増する高洲地区に公民館機能と地域に必要な機能を兼ね備えた施設の構想がされている。</li> <li>住民、子供と高齢者の居場所を担う必要がある。</li> </ul>

### 3-3. 施設計画に対する行政の取り組み

施設計画を行うにあたって、行政が住民の利便性向上を目的として行われたと考えられる調査とその方法と内容について調査対象が住民であるものと既存施設であるものに分類し、表4に示す。

表4で、住民を対象として行われた調査は市民意向調査とその分析、住民説明会の開催による意見収集、グループインタビューの3項目である。これらはすべて地域住民の考え方やニーズを把握するために行われている。

既存施設を対象として行った調査では、既存公民館の把握と既存公民館長へのヒアリング調査を行っており、施設機能検討などが目的とされていた。その内容として、市民意向調査結果などの報告が行われていたため、住民から得られた意見を主軸として、既存施設と行政間で、利用者にとっての利便性を向上させるために必要な施設計画に対する議論が行われていたと考えられる。

### 3-4. 複合施設に対する行政の考え方

基本構想・基本計画書<sup>注1)</sup>に記載されている「複合施設の考え方」から公民館部分と複合部分、公共複合施設の考え方に関する内容を抜粋し、複合施設に対する浦安市の考え方を要約して以下にまとめる。

#### ① 公民館部分の考え方

- ・地域と時代のニーズに合わせた機能で柔軟な対応ができる施設
- ・多目的利用が可能
- ・学校と公民館の融合
- ・個人と団体が自由に利用できる施設

#### ② 複合部分の考え方

- ・地域ニーズの反映
- ・市の施策を考慮し、地域住民のための特色ある施設づくり
- ・障がい者の就労の場

表3. 施設機能と教育行政の施策の体系

施設機能	教育行政の施策の体系	
高洲公民館	・生涯スポーツの振興 ・芸術・文化活動の振興	・学習機会の創出 ・創造性と個性を育てる生涯学習の推進
図書館高洲分館		
高洲児童センター	・家庭教育の充実 ・青少年の健全育成	・生涯学習推進体制の整備
支部社会福祉協議会	・創造と交流で築く市民文化都市	
高洲移動防犯ステーション		
その他	・学校教育の充実	

### ③ 公民館複合施設の考え方

- ・地域ニーズと社会教育施設の効果的な融合
- ・現在から将来を考えた地域協働の場
- ・既存公民館とのバランスを考慮した機能
- ・周辺環境と景観への配慮
- ・地球環境、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、健康への配慮

上記の項目から、行政が複合施設に対して期待する効果や重要視している項目を導き出すために、公民館部分と複合部分における考え方と公民館複合施設の考え方において共通項である項目は、施設計画全体に対して行政が考えていることであると仮定し、複合施設に関する考え方から除外する。また、施設計画に関係ない項目も除外する。

このことから、複合施設に対する行政が重要視している点は、社会教育施設の効果的な融合、現在から将来を考えた地域協働の場、既存公民館とのバランスを考慮した機能の3項目であると考えられる。

## 4. まとめ

### 4-1. 結果・考察

行政が計画当時の現状と課題として重要視していたと考えられる項目は、地域コミュニティと施設利用であり、生涯学習と生活利便性に関しては、比較的重要視されていない項目である。このことから、当時の浦安市では、生涯学習と生活利便性より、地域コミュニティと施設利用が問題視されており、それらが優先的に解決されるような施設計画が求められていると考えられる。

表3に示した教育行政の施策の体系が特に反映されていると考えられるエスレ高洲の施設機能は高洲公民館と図書館高洲分館、高洲児童センターであり、高洲移動防犯ステーションには反映されていない。このことから、教育行政では、社会教育施設として生涯学習のための施設

表4. 利便性向上を目的として行政の取り組み

対象	調査方法	内容
住民	市民意向調査と分析	・公民館機能・設備・備品・複合機能・施設の景観・施設の環境の5つの調査項目により市民が求めている項目を調査した。
	住民説明会の実施	住民説明会を開催し、意見を集めた。項目は・スケジュール・日照・施設環境と設備・交流・景観・交通・意向調査・交番用地・施設情報の提供の9項目であった。
	グループインタビュー	地域住民の考え方の把握を行った。
行政	既存公民館の把握	既存公民館の諸室を把握し、公民館機能の検討の参考にする。
	既存公民館長へのヒアリング調査	市民意向調査の報告などを通して既存公民館長にアドバイスや意見を求めた。

機能が求められており、浦安市の子供とその親世代が多いという地域特性から、児童や青少年に対する健全な教育を施す施設の計画を重要視していると考えられる。

施設計画における行政が行う調査項目において、住民対象であるものと既存施設対象であるものの大きく2つに分類できた。住民を対象として行った調査では、住民意見を捉えるための調査がされており、既存施設を対象として行った調査では、市民意向調査の結果や、住民意見をもとに調査されている。このことから、エスレ高洲の施設計画において行政は、住民意見を取り入れることを重要視していると考えられ、施設計画に住民の意見を反映することで、施設利用者の利便性向上を図ろうとしていたと考えられる。

複合施設に関する行政の考え方は、社会教育施設の効果的な融合、現在から将来を考えた地域協働の場、既存公民館とのバランスを考慮した機能の3項目である。社会教育施設の融合は生涯学習推進を目的としていると考えられ、地域協働の場とは地域コミュニティ生成を目的とした施設機能であると考えられる。また、既存公民館とのバランスを考慮することにより、エスレ高洲と他の施設を移動して使用する施設利用者が増えることが予想されるため、地域コミュニティの生成が活発になると考えられる。このことから、行政が複合施設を計画することによって目的としていることは、生涯学習の推進と地域コミュニティの生成であると考えられる。

以上で捉えた行政の行いの内容から、利用者の利便性向上に対する行政意図は、社会教育施設の計画、生涯学習の推進、住民意見の取り入れ、地域コミュニティの生成の4項目であると考えられる。

#### 4-2. 今後の展望

今後は、本稿で得られた結果をもとに利用者に対して行う満足度調査のためのアンケート項目を作成し、行政意図に対する利用者の満足度を調査することによって住民意識を捉えることを目的とする。

#### 【参考文献・資料・関連ホームページ】

- 1) 千葉県年齢別・町丁字別人口の結果  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/toukeidata/kourei-jinkou/chouchouaza.html> (参照2023-10-09)
- 2) 統計ダッシュボード  
<https://dashboard.e-stat.go.jp/pyramidGraph?screenCode=00570&regionCode=00000&pyramidAreaType=2#> 出典：「国勢調査」(総務省統計局)(参照2023-10-05)
- 3) 社会教育施設の複合化・集約化  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/gakugei/1387273.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/1387273.htm) 出典：文部科学省(参照2023-10-03)
- 4) (仮)高洲地区公民館複合施設の整備に伴う基本構想・基本計画書(平成19年度)
- 5) (仮)高洲地区公民館複合施設の整備に伴う基本構想・基本計画書(資料編)(平成19年度)
- 6) 千葉県ホームページ(参照2023-10-09)  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/>
- 7) 浦安市公式サイト(参照2023-10-09)  
<https://www.city.urayasu.lg.jp/>
- 8) 地域交流プラザ(エスレ高洲)  
<https://www.city.urayasu.lg.jp/shisetsu/shikanren/shiminkatsudo/1005497.html> (参照2023-10-06)
- 9) 千葉県市町村一覧(参照2023-10-11)  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/ichiran.html>

#### 【注釈】

- 注1) (仮)高洲地区公民館複合施設の整備に伴う基本構想・基本計画書(平成19年度) p.6,p17
- 注2) (仮)高洲地区公民館複合施設の整備に伴う基本構想・基本計画書(資料編)(平成19年度) p.1